
FAIRY TAIL ~ 蒼雷の滅竜魔導士 ~

さっくろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRY TAIL 蒼雷の滅竜魔導士

【コード】

N2204Y

【作者名】

さつくるー

【あらすじ】

蒼雷の滅竜魔法を使うカイン。彼が妖精の尻尾と共に歩んでいく物語

妖精の尻尾

俺はカイン傭兵をやっている

ギルドに入るってのも考えたが傭兵をやっていると一人で気楽だからな。仲間の事とか余計なことを考えなくて済むってわけだ

それと、ついでに竜も探している。7年前に俺の前から勝手に消えた竜だ

傭兵をやっていると良い依頼ばかりでもない。例えば、気に食わないギルドを潰すのに手を貸せて依頼とか・・・勝手にやっていると感じるのだが俺も飯を食うためには働かないといけないので断るわけにもいかない

そんなこんなで今マグノリアって街にいるわけだ、この街にあるフェアリーテイルっていうギルドは有名でファントムと並んで力があるらしい。今回受けた依頼はラファーガっていうモンスターを潰せって内容でフェアリーテイルと協力しての仕事になるみたいだ

カイン「面倒だな・・・はあ、ギルド入ろっかなあ・・・」

今はフェアリーテイルの魔導士待ちで、集合場所にいる

レビィ「遅れて、すみませーん！」

そう言って慌てて来たのが小柄な女・・・これで大丈夫なのだろうか？

ジェット「今回は俺達シャドウ・ギアと一緒に仕事をするぜ、よろしくな!!」

やたら帽子がながいのがジェット、変なのがドロイって言うらしい。最初に来た女はレビィ

カイン「そんじゃ、とっとと仕事を終わらせに行くとしますか」

そこから目的地に向かうこと1時間、ようやく着いたところでモンスターを目撃情報があったところへと向かう

レビィ「え・・・とカインさん？」

カイン「ん？あ、カインでいいよ。堅苦しいのは苦手だな」

欠伸をしながら歩いていたらところをレビィに話かけられた。

レビィ「今回のラファーガんだけど風を操るモンスターらしいだよね・・・カインはどんな魔法を使うの？」

カイン「俺か？失われた魔法だ」

レビィ「え!？」

カイン「お喋りはここまでだ、目標が見えたぜ」

ラファーガは中々の巨体で探すまでも無かった

ドロイ「で、でけえ・・・」

ジェットは目標のデカさの驚いていたが、相手に逃げられても面倒なのでこちらから仕掛けることにする

カイン「いくぜ・・・雷竜の爪撃!!」

右腕と左腕が蒼雷の爪へと変わりラファーガを切り裂いた

ドオオン!!

爆音とともに辺は砂煙に包まれ、砂煙がはれた所にはラファーガがフラつきながらも立っていた

カイン「意外に頑丈なんだな」

ジェット「お、お前今の魔法は・・・？」

カイン「俺の魔法はどうでもいいから、アイツ潰そうぜ。後は任せ
たぞフェアリーテイル」

その後は何の問題も無く、仕事は終わった

レヴィ「カイン・・・さっきのは滅竜魔法だよな？」

カイン「レヴィか・・・そうだ、あれは滅竜魔法」

レヴィ「そっか、うちのギルドにも滅竜魔法使う奴がいるんだよ」

カイン「聞いたことあるぜ、火竜の話は有名だからな」

今日の仕事はここで終わりだ

レヴィ「あの……さ、良かったらフェアリーテイルに来ない？」

カイン「んー……考えとくな」

そう言っただフェアリーテイルとは別れた

翌日……

異変があった、フェアリーテイルのギルドが何者かによって襲撃されたらしい。幸い深夜に襲撃にあったようで怪我人は出ていないようだ

カイン「さて……と」

暫くはこの街に留まる予定なので必要そうな物を買うに行く

カイン「買い物に行ったら時間かかりすぎたな……」

買い物が終わるころには日は沈んでおり辺は暗くなっていた

カイン「それにしても良い街だな……いつそのこと住んじまおうかな」

などと考えていると、突如ただならぬ気配……いや、匂いを感じ取った。

匂いのする方へと向かって行くと以前共に仕事をしたシャドウ・ギアが何者かに襲われているところだった

ジェットとドロイは重症でレヴィイも怪我をしているようだ。まだ、意識のあるレヴィイに止めを刺そうとする相手の攻撃を俺は氷へと変わった腕で防いだ

カイン「物騒な奴だな・・・お前・・・何者だ？」

ガジル「ああ？名乗るほどのもんでもねえよ！！」

腕を鉄へと変化させ、殴りかかってくる

レヴィイ「カイン・・・」

カイン「お前は黙って休んでろ」

ぶつかり合って、わかった・・・相手は間違いなく滅竜魔導士だ

ガジル「ま、二人潰したしこんなもんだろ」

そう言い残すと相手はその場から去って行ってしまった。俺は三人に応急処置を施し、ギルドへと連れて行くことにした

マカロフ「そうか・・・助けてくれたことを感謝する」

カイン「いえ・・・二人は間に合いませんでした・・・」

どうするか・・・ちょうど良い機会だ、フェアリーテイルへと入ろうか・・・

それよりも苛つく奴だな・・・ファントム。短い時間だがアイツらは良い奴だったのはわかった・・・それに楽しかったしな

カイン「相手はファントムか・・・」

俺は一人ファントムのギルドへと向かうのであった

キャラ設定

名前

カイン「ブルーライト

雷の滅竜魔導士。ラクサスとは異なり竜に育てられ滅竜魔法を覚えた。特に目立って違うのが雷の色が蒼いこと

現在はフリーだが妖精の尻尾へ入るかどうか迷っている。好きなものは本と睡眠、嫌いなものは勉強と面倒くさいこと

ギルドの屋根の上など、なるべく静かな所で眠っているが大抵の者はカインを見つけられない

・雷竜の咆哮

ラクサスと同種のものでカインのは蒼色となっている

・雷竜の爪撃

自身の両手を雷竜の爪へと変化させ攻撃する

・雷竜の双撃

足に雷を宿した状態で蹴る

・蒼雷刀”鳴神”

手に雷を集め刀を作る

・雷竜の怒槍

槍を作り出す、投げて使うことでも威力はカインの技の中でも
トップクラスのもの

・雷竜の激昂

両手に雷を集め打ち出す

滅竜奥義

・蒼雷砲天竜

自身の体に雷を集め口から一気に打ち出す

キャラ設定（後書き）

後から付け足していきますので、たまに見てみてください

幽鬼の支配者

カイン「ここがファントムのギルドか・・・」

俺は今ちよつとした用事があつて、とあるギルドにやって来ていた。

「あ？何だお前？」

「何か来たぞ、妖精じゃあねえみたいだが」

柄の悪い魔導士達が集まっているみたいだ。第一印象は最悪

カイン「いやあ、このギルドが強いつて有名でさ・・・この目で見てみたかつたんだよね」

「ははっ、俺達の前じゃ妖精もただの八工だからなあ！」

カイン「ま、ゴミ溜めつてのがハッキリとわかったよ」

「テメエ喧嘩売ってんのか！！」

ドオオン！！

次の瞬間、俺の周りにいた魔導士達が蒼い雷に包まれ倒れていく

カイン「俺はどこのギルドにも所属してね・・・お前等を潰した

い気分なんで潰すわ」

「なんだコイツ・・・!! やっちまえ!!」

次々と魔導士達が襲いかかってくる

カイン「雷竜の咆哮!!」

口から電撃が繰り出され、目の前にいた魔導士達が次々に倒れていく

カイン「数が多い・・・でも妖精の尻尾は攻撃できねーしな・・・俺が変わりにやってやってもいいだろ・・・!!」

拳に蒼雷を宿し、魔導士達を倒していく

カイン「はあはあ・・・雷竜の爪撃!!」

駄目だ・・・魔力が・・・一人は流石に無理があつたか・・・?

「今がチャンスだ!! やっちまえ!!」

もう駄目かと思つたが、どうやら俺の予想は外れていたらしい

ナツ「妖精の尻尾だア!!」

次々と妖精の尻尾の魔導士が入ってきて幽鬼の支配者の魔導士を倒していく

マカロフ「何でおぬしがここに?」

カイン「あー・・・ちよつと用事があつて」

マカロフ「すまんの、今はゆっくり休んでおれ」

数では負けていても一人一人が強い妖精の尻尾は幽鬼の支配者の魔導士を倒していく。

正直に凄いと思った・・・俺もこのギルドに入りたい・・・!!

今は火竜と昨日やりあつた奴が戦闘している。俺も負けてらんねーな・・・

カイン「蒼雷刀”鳴神”!!」

刀を作り出し俺も参戦する

グレイ「お？見かけねえ顔だな・・・!!」

カイン「通りすがりの魔導士だからな!!」

お互い戦闘中なのでゆっくり話している時間は無い。このまま妖精の尻尾が押し勝つのかと思っていたが予期せぬ事態が起こった

エルザ「マスター!？」

マスターマカロフが何者かによつて魔力を奪われ、撤退を余儀なくされた俺達はギルドへと引き返した。火竜・・・ナツって言うらしいんだが、ナツはというとルーシイって子を助けに行ってしまったみたいだ

グレイ「クソツ・・・あの、じいさんがやられるはずがねえ!!」

怪我人も多く状況は良いとは言えなかった

カイン「てか、俺まで何でギルドにいるんだ・・・？」

レビィ「カインも戦ってくれてたんだってね・・・ありがとう」

あまり元気が無いようだ・・・って当たり前のことか。

カイン「まあな、あんまし役には立たなかったが・・・」

レビィ「そんなことないよ・・・でも、何で戦ってくれたの？」

カイン「何でだろうな・・・イラっとしたから？」

実際のところはレビィ達のことを仲間とでもどっかで思ってたのかもな・・・

その後、ナツやルーシィと合流した。ギルドの皆にも挨拶をし何とか顔と名前は覚えることができた

ズシィン・・・

何かが近づいてくるような音と共にギルドが激しく揺れたので皆もギルドの外に出て音のしたほうを見る

エルザ「想定外だ・・・こんな方法で攻めてくるなんて・・・」

レビィ「ファントムのギルドが・・・歩いてる・・・!?!?」

俺も予想外だ・・・まさか、ギルドが歩くなんてな・・・ん？

もしかしくなくても・・・アレは!？

「魔導集束砲だ!！」

「ギルドを吹っ飛ばすつもりか!？」

エルザ「ギルドはやらせん!！」

エルザは超防御力を誇る金剛の鎧へと換装しジユピターを受け止めた

「エルザ!！」

当然無傷であるはずがない・・・エルザはボロボロになりながらもギルドを守りきった

ジヨゼ「マカロフ・・・そしてエルザも戦闘不能。もう貴様らに凱歌はあがらねえ・・・ルーシィ・ハートフィリアを渡せ。今すぐだ」

「ふざけんな!！」

「仲間を差し出すギルドがどこにある!！」

エルザ「仲間を売るくらいなら死んだほうがマシだつ!！」

ジヨゼ「ならば、さらに特大のジユピターを食らわせてやる!！」装填までの15分恐怖の中であがけ!！」

「ジュピター……また撃つのか!？」

焦るのも無理はない。もう一発あんなのが来たら今度こそ終わりだ。
ジヨゼはさらに幽兵を出してくる

カナ「ジュピターをなんとかしないとね・・・」

ナツ「俺がぶっ壊してくる!!!」

ナツ「15分だろ? やってやる!!!行くぞハッピー!!!」

ハッピー「あいさー!!!!!」

皆が一斉に動き出し始めた

レビィ「お願い・・・カイン。力を貸して・・・?」

カイン「任せとけ、なんとかするさ」

言われるまでもねえ・・・俺は体を蒼雷に変えると幽鬼の支配者へと向かった

レビィ「・・・ありがとう」

蒼雷

カイン「さて、たどり着いたはいいが派手にやらかしたな」

今はジュピターの残骸が残る場所にいる。どうやらナツはジュピターの破壊に成功したらしい

だが一難去ってまた一難、今度は巨人に変形しやがるし煉獄碎波<アビスブレイク>をぶっぱなそうとしているらしい。

カイン「それじゃ、手分けして動力源探すぞ！」

俺はナツと一緒に上を目指すことにし、しばらく走っていると開けた場所に出た

ナツ「おい、誰かいるぞ」

カイン「わかってる、アレはエレメント4の一人アリアだな」

マスターの魔力を空にしてくれやがった張本人だ

カイン「ナツ・・・お前は先に行け。上にいる奴らをぶっ飛ばしてこい」

ナツ「なにイイ!？」

カイン「ルーシィとやらを頼んだぜって言うてんだよ」

ナツ「・・・わかった」

アリア「行かせるわけには「雷竜の咆哮!!」」

ナツを行かせまいとアリアは攻撃をしようとするが、カインによって阻まれる

アリア「いいでしょう、火竜は貴方を仕留めた後で殺しにいきます」

カイン「やってみるよ、雷竜の双撃!!」

アリア「無駄です、貴方の攻撃は私には届かない、空域・絶」

カイン「ぐっ・・・!!」

攻撃が見えない・・・!!?アリアのほうに目をやるとそこにアリアの姿は無かった

消えた?一体どこに?!

アリア「貴方にもマカロフと同じ苦しみを与えよう・・・」

突如背後に現れたアリア

カイン「このときを待ってたぜ・・・!!」

アリア「なに!?!」

俺の周りに雷が降り注ぎアリアを攻撃する

アリア「な、なんだこれは・・・!?!」

カイン「竜の逆鱗ってやつだ・・・雷竜の激昂!!!」

アリアを蒼雷が包み込みそのフロア一帯を爆発させる

カイン「手間取らせんじゃねえよ・・・」

ナツも上で戦っているようだ、先程からギルド全体が揺れている

ジヨゼ「好き勝手に暴れてくれたなア、クソガキ」

カイン「本命登場だな、クソジジイ」

こっからがフルパワーだ

カイン「行くぜ、蒼雷刀”鳴神”」

ジヨゼ「暇潰しに相手してやる、こい」

ジヨゼは軽く指で弾くだけで俺の体は部屋の端まで弾き飛ばされてしまう

聖十大魔道の称号は伊達じゃないってことか・・・

カイン「だったらコイツで一氣に片付けてやる・・・雷竜の怒槍」

手に魔力を集め一本の槍を作り上げる

ジヨゼ「刀から槍に変えたところで結果は同じだ」

俺の槍は投擲の武器、全魔力を注ぎ込んでジョゼに向かって槍を投げた

辺一面が爆発で壊される

ジョゼ「やってくれたなあ・・・」

グレイ「オイ、大丈夫か!? って、コイツはファントムのマスターじゃねえか!」

エルフマン「コイツがマスターを・・・!!」

グレイとエルフマンが向かって行くがジョゼの攻撃により倒れてしまった。次にミラジエーンが・・・

ジョゼ「まとめて消えちまえ、デッドウェイブ!!」

カイン「クソツ・・・!!」

俺は三人を守るために攻撃を受けた、魔力が残っていない今アイツの攻撃を防ぐ手段といたら体を張って守るぐらいだ

意識が遠のいていく中でマカロフの声が聞こえた気がした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2204y/>

FAIRY TAIL ~ 蒼雷の滅竜魔導士 ~

2011年11月7日11時10分発行